



平成27年度初期臨床研修医マッチング結果について

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 **山口 高史**
(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター副院長)

平成27年度の初期臨床研修医のマッチングに関しては、昨年より8名増加、155名となり過去最高の研修医とマッチングすることができました。全国でも14位という好成績であり、マッチ率でも73.5%で昨年より3.5%増加しました。そのうえ、傾向として昨年同様、従来希望者の少なかった県央、県北で研修を希望する初期研修医も前にもまして増えてきています。特に日立総合病院と県立中央病院はフルマッチを達成し関係された皆様の努力が結実し、喜ばしいかぎりと思っています。また、マッチング者がいなかった病院も9病院から6病院に減少し、県全体として非常に良い結果だったと感じています。

一方、後期研修では日本専門医機構で審議が行われ、システムが構築なされています。また、プログラムや認定条件も明らかになりつつあります。まだまだ流動的な部分は多々ありますが、これらは決して初期研修と切り離されたものではなく、今後、初期研修対象者がどこで初期研修をしたらよいかということを考えるうえで、非常に重要な要素となります。

教育病院の皆様も、初期研修から後期研修にスムーズに移行できるような配慮が今まで以上に必要となると思われますので、本県の初期臨床研修環境をよりよく整備するとともに、後期研修への移行をよりスムーズに行えるよう関係各位のご協力をお願いいたします。

臨床研修医マッチングの実績状況

単位：人

	平成27年度						平成26年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	11,052	4,842	6,210	8,687	3,703	4,984	11,004	4,881	6,123	8,399	3,672	4,727
茨城県	211	98	113	155	75	80	210	94	116	147	91	56

三師調査結果について

本県の医師総数は、2年前の調査と比較して16人増(増加率0.3%)の5,188人で、前回同様の全国15位、人口10万対医師数は2.0人増(増加率1.1%)の177.7人で、前回同様の全国46位となっており、依然として“医師不足”の状況にあります。また二次医療圏別での医師数(図1)をみても、地域偏在が顕著となっています。

そういった中、20歳代の医師の増加率は全国平均の0.3%を大きく上回る7.1%(全国10位、図2)となっており、「若手医師教育研修立県いばらき」づくりの施策の効果が表れていると考えています。地域医療支援センターでは、引き続きこの取り組み推進に力をいれ、県内への医師の定着に努めてまいります。

●二次保健医療圏別医師数(図1)

	医師総数			人口10万対			
	H26	H24	増減	H26	H24	増減	
全国	311,205	303,268	7,937	244.9	237.8	7.1	
茨城県	5,188	5,172	16	177.7	175.7	2.0	
二次医療圏別	水戸	1,041	1,053	△12	221.5	223.0	△1.6
	日立	390	383	7	150.6	144.2	6.4
	常陸太田・ひたちなか	396	379	17	109.2	103.3	5.9
	鹿行	248	245	3	90.7	88.6	2.1
	土浦	521	500	21	199.7	189.0	10.7
	つくば	1,226	1,236	△10	369.6	377.6	△8.0
	取手・竜ヶ崎	797	786	11	170.2	167.0	3.2
	筑西・下妻	269	288	△19	101.3	106.6	△5.3
古河・坂東	300	302	△2	130.6	130.0	0.6	

※全国及び県人口総数 資料：「平成26年10月1日現在推計人口」総務省統計局
市町村別人口 資料：「茨城県常住人口調査結果報告書(平成26年10月1日現在)」茨城県企画部統計課

●年代別医師増減比較(図2)

	20代			30代			40代			50代			60代			70代		
	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位
全国	82	0.3%	▲105	▲0.2%	▲243	▲0.3%	2498	3.6%	5475	13.6%	384	2.1%						
茨城	33	7.1%	▲22	▲2.0%	▲50	▲4.2%	35	▲22	▲1.8%	41	94	14.2%	21	1	0.3%	30		

「地域の患者さんを地域で救いたいの、医療体制を充実させていきたい」

今年創立15周年を迎えた、鹿行地域の高度医療や第二次救急医療に対応する地域中核医療機関「なめがた地域総合病院」の副院長であり内科医の湯原孝典先生にお話を伺いました。

…今年度から内科の医師が増えましたが、現在の診療体制は？

昨年までは内科医は4名でしたが、現在は8名になり、以前に比べて外来診療枠が増えました。待ち時間も減り、受け入れられる人数も増えたので、前年度よりも患者数が増えました。外来については、現在のところ良好な状況だと思います。入院に関しても、入院患者数が増えていますので、やはり医師が増えた分、入院機能も向上したのではないかと思います。当直体制については、本当は内科系、外科系で二人体制が組めるといいのですが、残念ながらまだそこまではできないので、平日は番番と言って、例えば外科系の医師が当直の場合は内科系の医師が9時まで圏外の病院に行かなくてもいい体制をつくりたい。

私ももう60歳近いのですが、こういう地域の病院は高齢の医師が多くて若い医師が少ないのです。当院も去年までは6割ぐらいが50歳以上の医師だったのですが、若い先生方に来ていただいて平均年齢も下がりました。高齢の医師は当直をせずに、番番までの担当になることが多くなったので、ある程度の年配の医師も働きやすい環境ができていると思います。

●圏外の病院に行かなくてもいい体制をつくりたい。

…鹿行地域の医療状況について感じることは？

医師が少しずつは増えてきていますが、やはり少ないと感じます。鹿行地域は人口が27万人ぐらいで、水戸市の人

なめがた地域総合病院 副院長 湯原 孝典

口より少し多いくらいです。その割に水戸市に比べて医師の数は半分以下なのです。水戸市は700人近く医師がいますが、ここは300人に満たないくらいですから、他の医療圏へ行っている患者さんがまだ多いのです。これから高齢者が増えますから、地元でいろんな診療ができればそれが最善なのですが、まだ十分ではありません。

当院は救急車の応受率が、昨年までは60%、今年は74から80%で、医師が増えて10%以上向上しているのですが、それでもまだ100%までは遠いのです。ですから2割ぐらいの救急患者さんというのは、水戸とか土浦とか圏外に搬送されています。それをどうとるかですが、不十分と言えは不十分という気はしますが、県のいろいろな支援をいただいて少しずつですが改善しつつあると思います。

…血管造影装置が稼働しましたが、地域の期待や今後については？

常勤のいなかった循環器内科の医師が、今年4月から2名ずつ土浦協同病院から短期のローテーションで派遣されるようになり、11月から血管造影装置も稼働しました。ただ、短期のローテーションなので、緊急時の対応がまだできていないのが現実です。これから土浦協同病院との連携を強めていくので、循環器内科の先生方の協力も得やすくなりますから、近い将来は心筋梗塞等のカテーテル治療など緊急治療もできるようにしていきたいです。やはり一刻を争う疾患ですから、遠くまで搬送されるのと近くでできるの



病院紹介 コーナー

牛久愛和総合病院

(茨城県牛久市猪子町896)



という事が気軽にできるため、数多くの症例が経験できると思います。精神科、産婦人科など当院では研修の難しい分野に関しては、近隣の研修病院と連携してカバーするようにしています。初期研修後の進路は大学病院、他の研修病院などさまざまですが、最近では後期研修医として当院に残る人も出てきました。興味のある方はぜひ病院見学にいらっしゃってください。(初期研修プログラム責任者 瀬口 雅人)

とでは、予後に大きな違いが出てくる場合があります。地域の患者さんは地域で救いたいの、なんとしても充実させていきたいと思っています。

…お仕事の内容と特色について？

私の専門はリウマチと膠原病で、リウマチ性疾患を元々専門にしています。ただリウマチ性疾患というのは、一つの臓器を診ればいいという病気ではなく、内科の中でも全身を診なくてはならない領域なので今で言う総合診療科に近い分野です。特に当院のような中小規模の病院では、自分の専門分野だけを診ていればいいというのではなく、特に夜間の当直時間帯にはいろいろな症状の患者さんが来ますから、ある程度幅広く診れなくてははいけません。

鹿行地域には、内科系のリウマチ専門医は3人しかいません。そのうち2人は当院の医師なので、ここで診ることができないと、つくばや水戸、場合によっては東京まで通うこととなりますから、多少は地域のお役に立っているかなと思っています。

私は龍ヶ崎市出身なのですが、私が高校生までは龍ヶ崎市には総合病院がありませんでした。今は龍ヶ崎済生会病院ができましたが、当時は個人病院が一つか二つぐらいしかなく、土浦や取手の総合病院まで行かなくてはなりません。私の祖母は関節リウマチを患い、私が勉強をしている隣の部屋で「痛い、痛い」と唸って涙を流していました。リウマチ専門医になったのは、そういう祖母を見ていたからというもあります。専門医がいなかったので、祖母は病院を転々として、結局良ならず亡くなりました。そういうことで、リウマチに限らず、近くで治療ができるということは患者さんにとって非常に大事なことだと思います。

●患者さんが日常生活に戻ってくれることが喜びです。…仕事のやりがいや生きがいについてお聞かせください。

やりがいという、やはり患者さんがよくなってくれることが一番嬉しいことです。特に膠原病領域は、若い女性の患者さんがいらっしゃるのですが、元気になって笑顔で診察室に入って来ていただくと嬉しいです。

病気というのは苦痛を伴いますから、病気になっただけでも大変です。入院をしたり、定期的に通院しなければならなくなると、日常生活から逸脱した状況になります。そういう状況から日常生活に戻ってくれることが喜びです。患者さんに当たり前の普通の生活に戻ってもらうことが、やりがいになっています。普通の生活を普通に送れるということは、非常に大切だと思います。

●女性医師に地域医療の現場で活躍して欲しい。

…若手医師や医学生に向けてメッセージをお願いします。

医師不足の原因は、いくつかあると思うのですが、一つは臨床研修医制度が始まり、今度専門医制度が始まりますが、都心部の大病院に医師が集まりやすい環境ができてしまっているということです。もう一つは、女性医師が増えていることにも起因するかなと思います。今は医学部の学生の3割から4割ぐらいは女性です。当院の常勤医は今年24人になったのですが、女性医師は一人だけなのです。実質的に地域医療を担っているのは男性医師がほとんどなのです。ですから女性医師にも、地域の病院で働いてもらいたいと思います。地域の病院はベテランの男性医師が多くて、若手の女性医師が特に少ないというアンバランスな状況です。結婚や出産という大変なこともあると思いますが、女性医師を支援するいろいろな制度もありますし、各病院でも工夫をしていますから、産休や育休を活用しながら、病院の勤務医として続けていただきたいというのが切実な願いです。ぜひ、地域で頑張りたいと思っています。

研修医リレーエッセイ

水戸医療センター

初期臨床研修医 田所 優

“えっ、同期いないの？”こんな困惑から私の研修は始まりました。



研修先である水戸医療センターは水戸市内から車で約20分の茨城県町にあります。研修が始まり、何もできない状態から、落ち込んだり新しい知識や技術を習得したりを繰り返して充実した毎日を過

しています。研修医が多くはないため、自信がなくて尻込みしてしまうような場面でも役割があり、実践的な臨床現場を経験する事が出来ます。各科の間の敷居が低く日常診療や当直で他科の先生と接する機会が多いので、自然と総合的な研修が成されていると実感しています。また、上級医と近い距離で話せる雰囲気があり、興味がある事に挑戦させて頂いたり、将来に関する悩みを聞いて頂いたり、研修医の個別の要望に対して細やかな対応をして頂けるのも恵まれた点だと思います。さらに、年間を通して国立病院機構全体の研修があり、希望すれば各地方で開催される研修に参加して興味のある事を勉強したり、外部の人達と交流したり、院内に留まらず刺激を受けられる環境があります。

まだまだ出来る事が少なく学ぶ事はばかりですが、来年度マッチしている6名の研修医の先輩として、教える事でより一層多くの事を吸収し成長していきたいと思っています。

総合診療を学ぶ特訓ゼミ開催報告

【第1シリーズ】

日程：平成27年7月24日(金)～26日(日)

会場：三の丸ホテル(水戸市)

内容：講義 国立国際医療研究センター 国際感染症センター 忽那 賢志氏

感染症コンサルタント 青木 真氏

茨城県地域医療支援センター特別講師 徳田 安春氏

シンポジウム

特別講演 茨城県地域医療担当顧問 永井 秀雄氏

記念講演 JCHO理事長 元WHO西太平洋地域事務局長 尾身 茂氏

パネルディスカッション

※日本感染症教育研究会(IDATEN)との合同開催

【第2シリーズ】

日程：平成27年10月10日(土)

会場：お茶の水 ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区)

内容：県内の講師による講義及び県内指導医によるグループスタディ

【第3シリーズ】

日程：平成27年11月28日(土)～29日(日)

会場：オーシャンビュー大洗(大洗町)

内容：臨床推論8 番勝負

講義 茨城県地域医療支援センター特別講師 徳田 安春氏

Cornell University Richard Birrer氏



参加者からの声

- グループワークや参加型のセッションが楽しく、他の参加者と交流することができ、熱い、モチベーションの高い仲間が増えて非常に有意義な3日間でした。ありがとうございました。
- 専門医学教育と総合診療、感染症の教育の両立がやはり必要と考えました。このようなゼミは実は各科専門医にこそ必要と感じました。
- 教育に力を入れている茨城県の取組みは素晴らしいと思いました。
- 去年から参加させてもらっているが、今年も総合診療、ひいては一人の人間としての人間性教育について深く学べる満足感のある講義でした。

- リハビリ、法医学、チームドクターなど普段あまり関わりの少ない先生方の話が聞けて良かったです。
- 茨城への関心がとても向上しました。
- 内容以上に、先生方や良き仲間と出会えたことが何よりの財産となりました。
- Richard Birrer先生の講義は、様々な経験に裏付けられたお話で、とても濃い時間を過ごすことができました。

茨城県からのお知らせ

平成27年度茨城県臨床研修病院 合同説明会を開催します!

茨城県の臨床研修病院が一堂に会し、合同説明会を開催します。全国屈指の充実した指導体制と魅力あるプログラムをご紹介します。皆様のご参加をお待ちしております!



日程 平成28年3月13日(日) 13:00～17:00

場所 イーアスホール(イーアスつくば2階)

内容 ●本県の医療事情の説明
●各病院プレゼンテーション
●病院ブースによる個別相談 等

対象 医学生

申込方法

- FAX または E-mail にてお申し込み
「合同説明会参加希望」と明記のうえ、下記あてお申し込みください。
※記入事項：「氏名」「ふりがな」「大学」「性別」
「学年(4月からの新学年)」「出身都道府県」
- Web にてお申し込み
茨城県地域医療支援センターのホームページから、
いばらき電子申請フォームによりお申し込みください。



平成28年度自治医科大学医学部 入学試験のご案内

自治医科大学医学部第1次試験を行います。受験を希望される方は、下記により出願書類を提出してください。

出願期間

平成28年1月4日(月)～1月20日(水) 午後5時必着
※消印有効期限は1月19日(火)

出願書類の提出先

〒310-8555
茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県保健福祉部医療対策課
電話 029-301-3191(直)

提出方法

書留速達郵便、または簡易書留速達郵便にて提出してください。

第1次試験

学力試験 平成28年1月25日(月)
面接試験 平成28年1月26日(火) ※学力試験及第者のみ実施

試験会場(両日とも同じ)

茨城県開発公社ビル(茨城県水戸市笠原町978-25)

第1次試験合格発表 平成28年1月29日(金)午後1時

第2次試験日・合格発表日

※第2次試験は、平成28年2月4日(木)に自治医科大学で実施します。
(第2次合格発表日 平成28年2月12日(金)午後5時)

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内)TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp